

校内研修計画

山梨市立岩手小学校

1 学校課題

近年、グローバル化が進み、世界の国々の人々と経済や文化などで協力して支え合う機会が増え、国際社会に通用する力が必要とされている。そのような社会情勢の変化に伴い、山梨市は、国際理解教育の一環として、意欲的にコミュニケーションをしようという態度を育てるために英語活動に取り組んできた。

本校は、神社仏閣も残る自然豊かな地域にある。近年は、果樹を生かした観光化が進んで道路が新設され、休日ともなると観光客が訪れ活気がある。その一方、農業従事者の高齢化や児童数の減少も見られる。全校児童が、50名程度と少人数であり保育園から小学校卒業までほとんど変動のない人間関係の中で生活しているため、集団の中では消極的になってしまい、表現することには苦手意識の傾向があった。そこで、児童が将来幅広い社会の中で多くの人とコミュニケーションをとり、自信を持って自己実現を図ることができるように、「伝え合う力」の向上をめざして校内研究で取り組んできた。それと同時に、少人数の特性を生かした委員会や諸係での責任ある場の提供、地域の伝統を元にした「岩手小学校太鼓」の発表の場の工夫や児童会の様々な活動の活性化などを合わせ行ってきた。また、平成21年度から3年間は、教育課程特例校として、英語科学習を通してコミュニケーション能力の向上をめざし研究を進めてきた。その結果、授業中、ALTなどの話を集中して聴き、自信をもって発音する姿や、自分から友だちに関わりをもとうとする姿に変容しつつある。さらに、地域や学校内でのあいさつが活発になり、外部の方を前にした場や様々な発表の機会でも、萎縮することなく生き生きと活動する児童の姿が増えてきている。そこで、それらをふまえて、昨年度までの研究の成果を生かしながら、英語科教育を一層進めていくことで、なおいっそうコミュニケーション能力を育むことにつながると考える。

2 研究主題

コミュニケーション能力の素地を育む英語科学習
～ 4技能の体験的な学びを取り入れた指導のあり方～

3 主題設定の理由

本校では、平成21年度から、文部科学省指定「教育課程特例校」として、教科としての英語科に3年間取り組んできた。その過程で、本校英語科の拠り所となる「山梨市版英語科学習指導要領（岩手小学校プラン）」を作成し、本校なりの指導形態や評価のあり方などを研究してきている。

なかでも、英語科と外国語活動の違いを明確にすると共に、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の定着を目指して授業を組み立てていくことに、力を注いできた。単元配列や使用言語材料が児童の実態や発達段階に即したものになっているかを見直し、1年生から6年生まで、縦の系列を整えることができた。授業計画では、単元および本時の目標・内容と評価規準との融合性と精選化を図ることで、焦点化した授業を意識することができるようになった。中でも、英語科におけるコミュニケーション能力を高めるためには、「聞く」「話す」活動に加え、「読む」「書く」活動の総合的な指導がより効果的であると捉えた。すなわち、文字を発達段階に応じて指導することが必要だと考えた。「学年別言語材料の配置」を明確にして、本校オリジナルの「アルファベットソング」に合わせるなどして、「書く」活動を取り入れていることは、本校の大きな特色の一つと言える。そのような指導を継続した結果、「英語を聞いて、わかることが多くなった」「英語の発音が良くなった」と、学習者自身が学習内容の定着を自覚し、自信を持つようになったことは、大きな成果といえる。また、授業の時間だけでなく、「学校以外でも英語を使う」と回答する児童が増え、英語が日常生活とも結びつきつつあることも伺える。

その一方、4技能の定着を目指した、より効果的な指導方法や教材教具の工夫、児童の学習意欲が向上する、適切な評価や評定のあり方など課題も残っている。また、今年度は低・中学年の授業時間数が削減されたことにより、今まで以上に質の高い授業を行うことが求められる。さらには、中学校の英語科への緩やかなシフトを進めたり、市内4小学校との連携を深めたりする中で、本校で行ってきた研究をより深化させながら、市内における英語科推進を目指す役割も果たしていかなければならない。それらをふまえ今年度は、昨年度までの英語科の研究を土台として、4技能の体験的な学びを取り入れた指導を工夫することによって、コミュニケーション能力の素地を育むことにつながると考え、本主題を設定した。

4 研究の目的

コミュニケーション能力の素地を育むために、英語科における4技能の体験的な学びを充実させることの有効性を明らかにする。

5 研究の内容

* 英語科授業の充実

- ・ 指導方法や形態，評価の工夫を図る。
- ・ 4技能の体験的な指導方法を工夫する。
- ・ 一人一実践を公開し合う中で，英語科の授業力を高める。

* 英語を日常生活に取り入れる取り組み

- ・ 授業外の場合や方法，内容の工夫をする。
- ・ ALT や JTE などの専門性の有効活用を工夫する。
- ・ 教育課程との関連を明確にする。

6 研究の方法

< 授業研究 >

- ・ 校内授業研究を行い，全学年の授業を公開し合う。
- ・ 部会研究の内容を交流し合い，共通理解を持つ。
- ・ [低学年部会][中学年部会][高学年部会]の3ブロックを基本にして，授業研究を行う。

< 体験的な学びの工夫 >

- ・ 各ブロック内等で研究した実践を全体研究に反映させながら，さらに深めていく。

< 児童の実態把握 >

- ・ 児童の実態調査を年2回行い，成果や課題を分析したり，意識の変容を見取ったりする。
- ・ 個に対応した支援のあり方を研究する。

7 研究の予定

月	日	曜	回	主な内容	
4	11	水	第1回	研究の方向性について	全
	18	水	第2回	研究の方向性について	全
	25	水	第3回	校内研究の全体計画について	全
5	2	水	第4回	全体計画について 実態調査について	全
	11	金	第5回	部会研究	部会
	23	水	第6回	小中連携について	全
	30	水	第7回	部会交流	部会
6	18	月	第8回	部会研究	部会
	27	水	第9回	授業研究	全
7	25	水	第10回	研修	全
8	22	水	第11回	部会研究	部会
9	28	金	第12回	部会研究	部会
10	10	水	第13回	授業研究	全
	24	水	第14回	授業研究	全
11	7	水	第15回	部会研究	
	12	月	第16回	授業研究	全
	21	水	第17回	部会研究	
12	5	水	第18回	授業研究	全
1	30	水	第19回	授業研究 ・実態調査について	全
	12	火	第20回	実態調査結果・研究の成果と課題について	全
	20	水	第21回	来年度の研究の方向性	全
	27	水	第22回	研究紀要印刷に向けて	
3	6	水	第23回	研究紀要作成	全

9 研究の実際

(1) めざす児童像

学校教育目標

自ら学び心身共に健康な子どもの育成

(2) 教育課程の編成
平成24年度教育課程表(1単位時間を45分とした場合の標準時数)

学校の実態	子どもの実態	地域の実態
<ul style="list-style-type: none"> ・単級の小規模校で、学年の構成員の変動がほとんどない。 ・縦割り班活動を取り入れている。 ・地域の伝承をもととした「岩手小太鼓」に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・素直で明るく、何事にも真面目に取り組む。 ・上級生が下級生の面倒をよくみている。 ・表現することに自信を持たず、苦手意識を持っている傾向にある。 ・意欲はあるのだが、どうコミュニケーションをとっていったらよいのか消極的な傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・果樹中心の農村地帯であるが、保護者は農業以外の共働が多い。 ・神社仏閣などの歴史ある建造物が残っている。 ・核家族化が進んでいる。 ・教育への関心は高く、学校教育に協力的である。 ・学校が地域の発展の中心的存在である。



小学校卒業時の英語科における望ましい姿

・アイコンタクトをとりながら、クリアボイスで発音できる児童。



研究テーマ											各教科の授業時数				道徳	学活	総合	外国語活動	教科・道徳・学活・総合 総数
国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	英語										
1年	306		136		87 -15	68	68		102	15 +15	34	34			850				
2年	315		175		90	70	70		105	15	35	35			910				

					-15					+15					
3年	245	70	175	90		60	60		105	20 +20	35	35	50 -20		945
4年	245	90	175	105		60	60		105	20 +20	35	35	50 -20		980
5年	175	100	175	105		50	50	60	90	35 +35	35	35	70	0 -35	980
6年	175	105	175	105		50	50	55	90	35 +35	35	35	70	0 -35	980

* 特活は除いた時数

英語科を創出するために、次のように授業時間を設定する。

- 1・2年 ... 生活科の15時間を削減する。
- 3・4年 ... 総合的な学習の時間の20時間を削減する。
- 5・6年 ... 外国語活動の時間をあてる。

(3) 英語を日常生活に取り入れる工夫 (案)

【朝の会】

- ・「朝のあいさつ」 ... “ Good morning everyone . ”
- ・「朝の歌」 ... 全校音楽の曲と関連させ、音楽の授業や音楽集会でも歌っていく。
学習した会話表現の替え歌など、工夫する。
- ・「健康観察」 ... “ How are you? ” “ I'm ~ . ” 例を教室掲示
- ・「Daily English」 ... 月日 曜日 天気 時刻を唱える。
- ・学年によっては、司会も可能ではないか。

【帰りの会】

- ・「あいさつ」
- ・「Daily English」 ... 月日 曜日 天気 を唱える。

【校内放送】

- ・「朝の放送」 ... “ Good morning everyone . ” 月日 曜日 天気
- ・「お昼の放送」 ... “ It's lunch time. ” ~
- ・「清掃時間の放送」 ... “ It's cleaning time. ” ~
- ・「委員会関係の放送」
- ・BGMの工夫

【音楽集会】

【クラブ活動】 ... ALT や JTE にも指導してもらい、English クラブを設立する。

【ALT や JTE による読み聞かせ】 ... 朝の読み聞かせの時間を活用する。

【日常会話の中で】

- ・教師が教科外でも、日常的にクラスルームイングリッシュを使うように心がける。
- ・あいさつ、お礼、指示などに使用できるのではないか。

【校舎内の環境整備】

- ・教室や校舎内の英語の環境整備を進める。